

直売所では花を求めるお客様が多くいます。栽培方法を確認し、鮮度保持剤を使用し、きれいで長持ちする花で店頭を彩りましょう。

【アスター】

根が浅いので、マルチ被覆をします。立枯病（フザリウム）が出やすいので連作は避けます。害虫が多発しますので定期的な防除が必要です。

【ケイトウ】

高温乾燥に強く、播種から約3ヶ月で収穫可能です。ヨトウムシ類の防除が必要です。茎の太さは鉛筆程度が良く、太くしないように基肥は入れません。採花時期は花軸にある小さい花が咲いてから採花します。

【ヒマワリ】

播種後約2ヶ月で開花します。直播き栽培で基肥は入れません。

【ジニア(百日草)】

10月から枝切りすると花

茎の硬さや日持ち等の品質が安定します。八重品種が適しています。(柏崎)

夏からの直売所販売に適した品目一覧

品目名	品種名	栽培環境	栽植密度	播種期	定植期	収穫期
			株間×条間×条数			
アスター	松本シリーズ(サ)	施設	12cm×12cm×6~7条	3月	4月	7月
	アレンジアスター(ミ)(タ)					
ケイトウ	久留米、ボンベイシリーズ(フ)	施設・露地	12cm×12cm×6条	4月	5月	7月
ヒマワリ	サンリッチ系(タ)	施設	12cm×12cm×6~10条	4~6月	—	6~8月
	ピンセント系(サ)					
ジニア	ロイヤルシリーズ(サ)	施設・露地	25cm×25cm×3条	7月	8月	10~11月
	キュービット(サ)					

※ ()内は種苗会社名:(サ)㈱サカタのタネ、(ミ)㈱ミヨシ、(タ)タキイ種苗㈱、(フ)福花園種苗㈱

直売所の店頭を華やかに彩る

~夏からの販売におすすめの直売所向け切り花~

技術 & 情報

ゆで豆用落花生

「おおまさり」の栽培方法

~大粒やわらかな美味しさを届けよう~

「おおまさり」の子実はジャンボで柔らかく甘みが強いので、見た目と食べた時の美味しさにインパクトがあり、消費者受けします。栽培面では、株が大きく広がるので、従来の栽培と異なる点があります。

【ほ場の選定と準備】落花生を連作していると白絹病等の立ち枯れが発生してきますので、連作をしていない畑を選びます。堆肥や緑肥を鋤き込む場合は早めによく分解させておきます。作付前に苦土石灰を60kg/10a施用します。

【種まきの方法】基肥は窒素成分3kg/10a、りん酸と加里は成分で各10kg/10aを目安に施用します。莢の表面を食害するヒョウタンゾウムシやコガネムシ類の幼虫防除として、播種時にトクチオン細粒剤Fを土壌混和します。

マルチ栽培の種まきは5月中旬〜6月中旬に行います。

【中間管理】開花始期にマルチを取り除き中耕・培土します。その時に、石灰肥料を施し莢の充実を図ります。夏季に異常な乾燥が続くと空莢が発生しやすくなるので、たっぷり灌水を行います。

【収穫時期の目安】白絹病の発生が見られたら、フロンサイド粉剤(収穫45日前まで)を20kg/10a株元散布します。

【収穫の目安】開花期後85日頃(9月下旬)です。試し掘りを行い、少し網目がはっきりしてきた頃を目安に早採りします。1株2本立で40粒ほど上莢が取れます。柔らかく美味しい「おおまさり」を消費者へ届けましょう。(保坂)